

支店 鹿児島市山崎町  
電話 0996-23-1111  
通川北出張

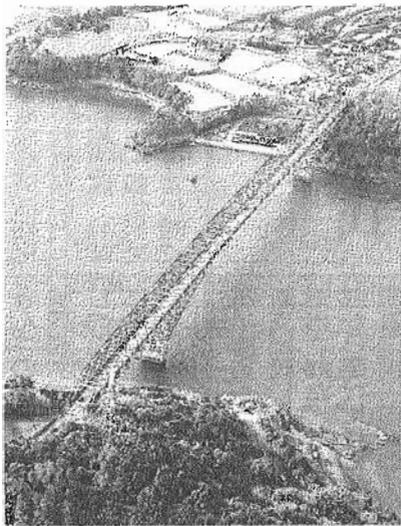
工二ユ一  
事回体ス一  
団体ス一  
部は部へ

### 出水土木

## 黒之瀬戸大橋補修に着手

# 新年度は高欄付替え

道389号黒之瀬戸大橋は、黒之瀬戸海峡にかかる全長502m、鋼3径間連続トラス橋。日本道路公団により昭和49年3月に竣工、供用後30年が経過している。12年度から補修箇所調査や現況交通に対する安全性・耐震補強の必要性について調査・検討。その結果、高欄等の補修や地震時の落橋防止、耐震補強の対策が必要であること。また塩害による塗装の剥落・発錆が生じていることから再塗装が必要であると判断された。事業は20年度までの5カ年計画で、全体事業費は概算で約10億円。高欄改修や橋脚耐震補強、支



海上橋の耐震補強は全国自治体で初の施工になる。航空写真提供(株)不二青

### 川内・出水管内の2月期確認状況

## 旭住宅、道添建設が好調

【川内土木事務所】川内土木事務所管内の2月期建築確認件数(川内支局調べ)は49件で、そのうち住宅新築は30件、住宅増築は6件だった。

旭住宅(30件)の構造別では木造が29件、S造が1件で、木造比率は96・70%だった。2月期の住宅建築確認の施工者別(判明分)では、管内企業(2件以上)

旭住宅が3件、成建ホーム2件、植村組2件だった。県内企業では、山佐産業1件、吉留住設(鹿屋市)1件、ミスミ建設1件だった。

旭住宅が3件、成建ホーム2件、植村組2件だった。県内企業では、山佐産業1件、吉留住設(鹿屋市)1件、ミスミ建設1件だった。

### 川北電工ハイソリック作戦③

## ヒヤリ・ハット事例全部署から収集

川北電工(株)(田中憲夫社長)は、昨年10月から継続的に社内呼び掛けヒヤリ・ハットの事例を集めている。回答を寄せた社員の率直な姿勢にまず脱帽する。同社には第1回掲載の「ベンチマーク」もそうだが、「失敗から学ぶ」という企業風土が確立されているようだ。

10月に収集した事例は128件(重複回答を含む)。1位は車両運転37件、2位つまつき・転倒21件、3位墜落・転落21件、4位飛来・落下17件、5位品質12件だった。11月に第3回「事故をなくする会」が開催された。出席者は社長はじめ安全・品質推進本部長、各部署のSQ管理者、同会の名称も決定的を得ている。どんな書物にも安全について「絶対安全とは

どこにも書いていない。ただ危険が少ない」と言っているに過ぎない。事故を未然に防ぎ、一つでも事故を少なくするための活動を安全活動と言つのであれば、会名はあいまいな安全という言葉よりも明快だ。

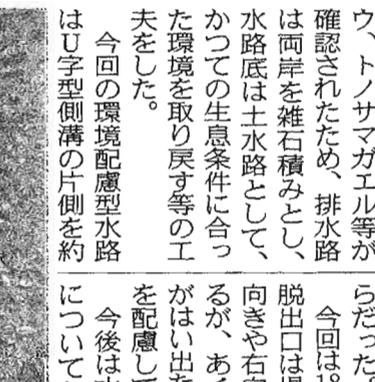
同社は昨年「川北電工ハイソリック作戦」を展開中だ。「一つの重大事故の裏には29の軽い事故があり、さらにその裏には300の小さな異常がある」というハイソリックの有名な法則である。その作戦展開中に収集し

たのが、冒頭の事例である。田中社長は「大きな事故に至る前に、小さな異常を芽のうちに摘み取る。私たちが『幸せ』を手にするために全員で取り組み、成し遂げたい」と自ら決意を述べている。成果はどうか?安全・品質管理室推進本部長の田中陽一郎専務は「全部署に事例を回覧し、作業前には必ず整備員も交えて打ち合わせを行う。市比野道朝礼等で再度、の駅前車場で



## 全事業に環境配慮型水路

鹿児島市樋脇町塔之原の県営中山間地域総合整備事業(礼北地区)で、「環境配慮型水路」を試験施工、結果が良好なことから17年度から全ての事業で全面設置することを決めた。排水路・用水路など環境に配慮した水路は、内地では同事務所が初めての施工となる。同地区には県の準絶滅危惧種のメダカ、ドジョウ、トノサマガエル等が確認されたため、排水路は両岸を雑草積みとし、水路底は土水路として、かつての生息条件に合った環境を取り戻す等の工夫をした。



今回の環境配慮型水路はU字型側溝の片側を約2・0の比率でスロープ(幅約20×30cm)をつけ、側溝に落ちた鳥のヒナやカエル、ヘビ、イモリ、カニ等が自由に脱出できるようにしたもの。絶滅危惧種ばかりでなく、もともと同地区に生息している小動物全体の自然環境に配慮するとの試みからだった。

今回は18カ所設置した。脱出口は場所によって左向きや右向きだったりするが、あくまでも小動物がはじ出たときの「安全」を配慮していること。今後は水路の合流マスについても検討を進め、環境に配慮した水路とは何かを提案していく。

### 串木野IC開通を機に

## わが街にどうぞ

南九州西回り自動車道・川内道路のうち串木野ICから市来ICが13日、一般に無料供用された。暫定2車線で規制速度は70km/h。

田苑酒造  
工場(鹿児島市)増築

田苑酒造(株)(薩摩川内市)は、手狭だった充填・製品製造部門を旧工場棟から移設を計画、(株)鎌田設計(薩摩川内市)に設計を依頼していた。建築確認が下りたのに伴い、数社から見積もりを徴集。検討の結果、(株)植村組の施工に決まった。今後詳細を調整し、契約締結後4月上旬に着工、8月完成を目指す。

工事場所は、薩摩川内市樋脇町塔之原11356-1。構造はS造一部2階建て、805平方メートル。

### 3会場で電子勉強会

## 読者の提案を募集中

【出水土木事務所】出水土木事務所管内の2月期建築確認件数は28件。そのうち住宅新築は15件、増築は2件だった。住宅新築の延べ床面積の平均は106・64平方メートル。増築は89・95平方メートルだった。住宅新築の構造別では木造が14件、S造が1件で、木造比率は93%だった。

住宅確認件数のうち施工者別(判明分)では、管内企業(2件以上)は道添建設3件、井島建設2件だった。県内企業では山佐産業が1件だった。県外ハウスメーカーでは鹿児島積水ハイムの1件だけだった。

【出水土木事務所】出水土木事務所管内の2月期建築確認件数は28件。そのうち住宅新築は15件、増築は2件だった。住宅新築の延べ床面積の平均は106・64平方メートル。増築は89・95平方メートルだった。住宅新築の構造別では木造が14件、S造が1件で、木造比率は93%だった。

【出水土木事務所】出水土木事務所管内の2月期建築確認件数は28件。そのうち住宅新築は15件、増築は2件だった。住宅新築の延べ床面積の平均は106・64平方メートル。増築は89・95平方メートルだった。住宅新築の構造別では木造が14件、S造が1件で、木造比率は93%だった。

【出水土木事務所】出水土木事務所管内の2月期建築確認件数は28件。そのうち住宅新築は15件、増築は2件だった。住宅新築の延べ床面積の平均は106・64平方メートル。増築は89・95平方メートルだった。住宅新築の構造別では木造が14件、S造が1件で、木造比率は93%だった。

## 植村組に決まる

### 工場(鹿児島市)増築

田苑酒造(株)(薩摩川内市)は、手狭だった充填・製品製造部門を旧工場棟から移設を計画、(株)鎌田設計(薩摩川内市)に設計を依頼していた。建築確認が下りたのに伴い、数社から見積もりを徴集。検討の結果、(株)植村組の施工に決まった。今後詳細を調整し、契約締結後4月上旬に着工、8月完成を目指す。

